

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きみ色とやま			
○保護者評価実施期間	令和7年1月27日		～	令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	令和7年1月14日		～	令和7年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月16日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者アンケートでは、「満足度」が非常に高かった。これは、多くのベテランスタッフの献身的な支援の賜物と捉えている。また、日々の活動に個の活動と集団の活動を必ず設定し、実践していることも大きく評価されていると感じた。	可能な限り、経験豊富なスタッフを利用者2人当たり1人配置するようにしている。	臨床心理士を配置し、より専門的な支援を充実していきたいと考えている。
2	保護者アンケートでは、「満足度」に次いで、「環境・体制整備」「適切な支援の提供」が良い評価を受けた。これは、上のことに加え、毎日、利用者集団の実態を踏まえ、楽しむことができるプログラムを考え、実践していることが評価されたものと感じた。	曜日ごとに変化する利用者の実態を考慮して、個の活動・集団活動を充実したものに行っている。	来年度は、利用者数がほぼ限度数に達する見込みで、より一層、集団活動の充実を図る必要があると考えている。 スタッフミーティングをこまめに設定し、全ての利用者が楽しめるようにしていきたいと考えている。
3	従業員アンケートでは、「環境・体制整備」「適切な支援の提供」「保護者への説明」「非常時等の対応」は、良い回答が多かったことから、この4点については、いい状態にあると感じた。	何よりも優先すべきは、「適切な支援の提供」である。スタッフ間で意思疎通をより強固に行い、そこを充実していきたいと考えている。	上と同じことになるが、来年度は、利用者数がほぼ上限に達する見込みなので、支援の質を落とさないように注意していきたいと考えている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※ 事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者アンケートでは、「保護者への説明」が比較的评价が低かった。この結果を真摯に受け止め、あまり重要視していなかった家族支援や保護者支援の機会を増やして行く必要性を感じた。	利用者（児童・生徒）の満足度を高めて行けば保護者の信頼も得られ満足度も高まると考えていたが、直接的に保護者に向けたアプローチにも力を注ぐ必要があると感じた。	より専門的な知見がある臨床心理士を配置し、その部分を強化していきたいと考えている。
2	従業員アンケートでは、「報連相の充実を図るべし！」という意見を多く頂いた。ベテランが多いとはいえ、細部に対する報告、連絡、相談を徹底していく必要を感じた。	全スタッフが一堂に会する時間が限られており、その時間は、利用者がいる時間に限られており、時間の確保が課題である。	少ない時間でも計画的に運用していくことで解決を図りたいと考えている。
3	従業員アンケートでは、「関係機関との連携」が足りないという意見を多く頂いた。	関係機関との連携を図る時間の確保が難しい。電話連絡をすることが、現状では精一杯だと思っている。	電話連絡のみに頼らず、足を運んで情報交換する機会を可能な限り作りたいと考えている。

公表

事業所における自己評価明細

事業所名		みみ色とやま			公表日	令和7年3月3日
環境・体制整備	チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	1	利用定員が児童発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	近隣の体育館や公園などを多く利用している。	昼間日や梅雨日の活動場所を確保したい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員配置数は適切であるか。	5	0	多めに配置している。(二人に一人基準)	なし
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構成化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性にらし、バリアフリー化や情報伝達等、障壁上の改善が適切に行われているか。	5	0	壁フクロの為、すべて見通せる環境である。	なし
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	毎日、始業前に清掃している。また、整理整頓は利用者と共に常に実施している。	なし
業務改善	5	必要に応じて、こどもが個別の課題や悩み等を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	個室あり、随時、利用可。	なし
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定→振り返り)に、広く職員が参加しているか。	3	2	職員全員での情報交換の時間設定を工夫している。	専用のコミュニケーションツール等を利用し、時間がなくても情報交換ができるように工夫している。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	保護者には、利用の場などの様子を伝えているので、日々の様々な反応を察知しに上がっている。	なし
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	小さなことでも言いあえる場になっている。	なし
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5	市の監査を昨年受けたが、その他の外部評価は行っていない。	今後、どのように実施するか検討。
適切な業務の提供	10	職員の成長の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	2	研修室内を提示している。	実際に研修に出る必要に支障が出ることも多く、積極的に出せない現状がある。 外部にアウトを伝え、できるだけ研修の機会を増やしたい。
	11	個別に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1	HPにて公開している。しかし、宣伝不足を感じる。	Web上に公開したものをプリントし、いつでも読めるようにしておく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を定期的に分析した上で、支援等サービス計画を作成しているか。	5	0	日常活動の一部になっている。	なし
	13	支援等サービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者が主となり、こどもの支援に関与する職員が計画段階の下で、こどもの最善の利益を考えた検討が行われているか。	4	1	専用のコミュニケーションツール (HUG) にて各自に公開。	専用のコミュニケーションツール等を利用し、各職員の考えが伝えられるよう工夫している。
	14	支援等サービス計画が職員間に見られ、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	HPにて公開している。	なし
関係機関との連携	15	こどもの通達行動の状況や、標準化されたツールを用いたフォーラムやアセスメントや、日々の行動観察なども含むフォーマットを活用したアセスメント等により確認しているか。	3	2	標準化されたツールを用いていないが、通達行動の状況は、日々、確認している。	標準化されたツールを活用することの有用性を検討したい。
	16	支援等サービス計画には、支援等サービスガイドラインの「支援等サービス計画の作成すべき項目」の「本人支援」、「関係機関」、「関係機関」及び「地域連携・関係機関」の項目の支援内容も含まれるが、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、それによって、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	HPにて公開している。	なし
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	HPにて公開している。	なし
	18	支援プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	集団活動は、利用者が興味をひく内容を考え、毎日変えている。また、個別活動は、利用者の成長を見ながら、日々変えている。	なし
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ支援等サービス計画を作成し、実施が行われているか。	5	0	HPにて公開している。	なし
関係機関との連携	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	日常的に実施している。	なし
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	4	1	確認があるため、専用のコミュニケーションツール等で確認している。	なし
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	専用のコミュニケーションツールを用いて記録し、日々、保護者にも公開している。	なし
	23	定期的にモニタリングを行い、支援等サービス計画の進捗の必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	2	国の規定に準い、6ヶ月に1回のペースで行っている。	利用頻度により、適切な見直しの時期をどうすればよいか悩んでいる。毎日利用者で月1～2回利用者が、共に6ヶ月と定めた頻度で実施にできている。
	24	支援等サービス計画の「4つの基本活動」を確認し、計画に沿って支援を行っているか。	1	4	4つの基本活動のうち、地域交流の活動以外の3つは、常に複数組み合わせで実施している。	地域交流の活動は、現状ではハードルが高い。少しでも低くするような取り組みを模索したい。
関係機関との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を促すような支援を行っているか。	5	0	児童が各自の特別性を立て、実施している。	なし
	26	児童発達支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	3	2	電話連絡が精一杯である。	よく理解した者が参加しない意味がないと相談と理解している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、児童福祉、保健、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	体制は整っている。	時間の設定が極めて難しいのが実情。
	28	学校との情報共有（定期計画・行事予定等の交換、こどもの下校時の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	1	4	いつでも情報共有できる体制は整っている。	上と同じく、時間設定できないのが実情。また、未練は学校が急務として動くべきものと考えている。
	29	統制前に利用していた保護所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	相談支援専門員との連携が主である。	保護所や幼稚園等との相互理解がなくても問題なく活動できている。
関係機関との連携	30	学校を卒業し、支援等サービス計画の履修施設サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか。	4	1	準備ができているが、例外的はない。	なし
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイザーや助言や指導を受ける機会を設けているか。	1	4	設けていない。	今のところ、受ける必要を感じていない。
	32	支援児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	0	同法人のしほぎキッズやこようキッズ等との交流は常に行っている。	なし
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	0	5	参加していない。	必要を感じていない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え、こどもの発達や状況や課題について共有しているか。	5	0	専用のコミュニケーションツールを使い、利用の場に必要な資料を入れて送付している。また、それに対する感想や意見を添えている。	なし
関係機関との連携	35	児童の認知力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング）や家族等の参加できる活動の機会や情報提供等を行っているか。	1	4	ニーズがあれば対応する。	なし
	36	連絡調整、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	利用開始前、時間を取って行っている。	なし
	37	支援等サービス計画を作成する際には、こどもと保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや保護者の意向を尊重する機会を設けているか。	5	0	設けている。	なし
	38	「支援等サービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から支援等サービス計画の同意を得ているか。	5	0	導いている。	時間を取る工夫をしたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、相談や必要な助言や支援を行っているか。	5	0	行っている。	日常的に相談しやすい相談窓口を確保しておく。
関係機関との連携	40	父母の会の活動に支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士の交流する機会を設ける等の支援を行っているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援を行っているか。	3	2	合同のイベントを年に数回実施。	ニーズがあれば回答を答えることも考える。
	41	こどもや保護者からの依頼について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に通知し、協議があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	適切に対応。	なし
	42	定期的に連絡等を行うことや、HPやSNS等を活用することにより、活動調整や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	専用のコミュニケーションツールを効果的に用いて、発信している。	なし
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	書類は鍵のかかる保管に保管。その他のものは、変更が見えないように十分管理している。	なし
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	専用のコミュニケーションツールを有効に活用している。	なし
関係機関との連携	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っているか。	3	2	イベント企画をしている。	積極的な計画を立てる必要を感じている。
	46	家族禁止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、他、必要対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	マニュアルは、いつでも確認できるような場所に置いている。	なし
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に訓練、演習その他必要な訓練を行っているか。	1	4	訓練実施の準備は整っている。	定期的に実施できるよう工夫したい。
	48	事業に、感染症予防措置、てんかん発作等への対応を確立しているか。	5	0	保護者との連携を徹底に行っている。	なし
	49	食料アレルギーのあるこどもについて、食料の提供にまつ対応がされているか。	5	0	入用の際、欠かさず確認することを徹底している。	なし
関係機関との連携	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な指導を講じる等、安全管理が十分な状態で実施が行われているか。	5	0	いつでも確認できるようにしている。	なし
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画にまつ関係機関について、家族等へ周知しているか。	5	0	入用の際、欠かさず確認することを徹底している。	なし
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	5	0	毎日、始業前に確認している。	なし
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	1	虐待が疑われる対応があった場合、職員間でその場で確認しあうようにしている。	なし
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に実施し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、支援等サービス計画に記載されているか。	5	0	記載があるが、身体拘束を実行する場面は想定できない現状にある。	なし